

熱環境の測定のレポートについて

ほとんどの人が、かなりの出来映えでした。今ひとつという人もいましたが、力作が数多くありました。ただし、5時限目に行った放射率の測定については、ほとんど誰も触れていませんでした。時間がなかったからでしょうか、それともあまりよくわからない実験であったためでしょうか。例え、あまり良くない結果が出たとしても測定（実験）は測定（実験）です。きちんとレポートにしましょう。その他、以下の点については、今後、気を付けてレポートを作成してください。

- 1) 数式については、できるだけ記号を使って、きちんとした式を書きましょう（今回の配付資料では、わかり易いように言葉を使ってありましたが）。その際に、数式を入力するためのツール（word の場合は、「挿入」「オブジェクト」「Microsoft 数式 3.0」で入力可）を使いましょう。
- 2) 乾球温度と湿球温度から計算した相対湿度は、厳密に言えば、「測定値」ではありません。「測定値」を用いて、計算（？）したものです。実際に測定によって得られたデータと、それを何らかの形で加工して得られたデータは区別しましょう。また、小数点以下の桁数がおかしい人が依然としていました。気を付けましょう。
- 3) 同じレポートの中で、「計測」と言ったり、「測定」と言ったりしないで、できるだけ統一しましょう。
- 4) 簡単なので、今回の実験でも用いましたが、不快指数は、基本的には、夏の環境を評価するために用いられることが多い指標です。また、SET*や PMV などを用いると、基本的に温熱環境の6要素全ての影響を考慮して、温熱環境を評価することができます。
- 6) 考察については、もう少し筋道を立てて説明した方がよいのでは、と思える人が何人かいました。また、もう一步踏み込んで推測したり、疑問点を調べたりすると更に良いレポートになります。
- 7) 地図には、せめてバースケールと方位は入れましょう。平面図を載せる際も同様です。
- 8) 「温度的には」などという言い方はやめましょう。
- 9) 配付資料 31 ページの快適線図を使って評価していた人はいませんでした。是非、使ってみてください。
- 10) 表や図のタイトルは、そのタイトルのみを読んで、表や図の内容がわかるようなタイトルで、かつ簡潔なものを付けましょう。
- 11) 実験のレポートを読んで、別の人を追試できるように書きましょう。説明が足りない人もいました。また、できるだけ読みやすいレポートするように心がけましょう。
- 12) 変換ミスも若干ながらありました。注意しましょう。
- 13) 感想と考察はきちんと分けましょう。考察のところで、「～と思う」としている人がいました。「～と考えられる」などとした方が良いでしょう。
- 14) できるだけ、引用元を明記するようにしましょう。卒論などの場合は必須です。